

三越のエンブレムにも銅 宮田亮平氏の金工展開催

2004年10月、日本銅センター賞を受賞した宮田亮平氏の金工展が日本橋三越本店で開催された。宮田氏は東京芸術大学理事・副学長であり、鍛金、銅工芸における第一人者。リニューアルされた日本橋三越本店新館のエンブレムをも手がけている。新館のオープンを期に行われた今回の展覧会では、宮田氏のライフワークである シュプリング イルカをモチーフとした銅工芸が出展され、輝く銅の美しい作品は、多くの人を惹きつけていた。



銅の魅力は世界共通 船舶用金属としての銅

ICA(国際銅協会)が発行するDiscover Copperに船舶用金属としての銅に関するコラムが掲載された。

同誌では、銅合金、とくに銅ニッケル合金は、半世紀以上にわたり、船殻や洋上設備の塩水による腐食を防ぎ、フジツボや藻類などの繁殖を抑えることで、造船産業にとって重要な金属であると紹介されている。船殻が銅ニッケル合金で覆われている船舶は、特殊な防汚塗装をする必要も、付着生物を除去するための大がかりな清

掃作業を繰り返す必要もない。水棲生物があまり付着していなければ、高速で航行でき、使用する燃料も少なくてすむ。造船メーカーが開発した船殻を銅で覆う最も新しい方法は、粒状の銅ニッケル合金とエポキシ樹脂を船殻に塗布するキュプロテクト™(イギリスEcosea社)だということだ。



高校教育に「銅」の話題 NHK教育・高校化学で「鉄と銅」放映

NHK教育テレビの「高校化学」という番組で「鉄と銅」というテーマが取り上げられた(2004年11月放映)。このテーマの制作にあたり、日本銅センターは取材協力、資料提供を行った。本編では、銅の衛生性、加工性、熱伝導性などの面から、銅の特性をわかりやすくまとめている。この放映は何度かにわたり、全国の高校の授業で活用される予定だ。



フランク・ロイド・ライトの設計による自由学園明日館。設立時の銅屋根を忠実に復元。旧帝国ホテル(明治村)に保存されるライトの作品と共通する品の良さも銅素材の魅力を引き出すライトの設計力!一度ご見学を。エコキュート「給湯革命」に細径の裸銅管がしっかりと活躍。身は細けれど強じんな鍛え抜かれた肉体美。

京都議定書の発効・国のお金の支援と追い風。いや神風デスカ。目が点になりました。どうもいい話のようです。今月号より装丁を一新。ロケ取材も盛りたくさん。これからも銅のとくめきを感じられる本誌にご期待ください。

編集デスク 齊藤 久嘉(日本銅センター広報)

委員長 馬場一憲((株)神戸製鋼所)
委員 鉦山 / 増田勝彦(三菱マテリアル(株))、高橋涉(パンパシフィック・カッパー(株))、永田禎彦(日本鋳業協会)伸銅 / 田中和雄(古河電気工業(株))、松阪和則(日本伸銅協会)電線 / 湯谷彰((株)フジクラ)、宮田充((社)日本電線工業会)